

移住者と議会

都市部から地方への移住・定住のニーズが高まっています。ふるさと回帰支援センターが実施した「2024年移住希望地ランキング」では、群馬県が全国で1位にランクインするなど、注目を集めています。

そんな中、本市でも埼玉県から移住されたご夫婦が、地域文化交流の拠点を築く活動をされています。新たな土地での生活を通じて、どのように地域とのつながりを深め、文化を育んでいるのでしょうか。

今回の特集では、移住者としての視点から、活動への思いや取組について、また地域の魅力や課題、そして地域交流の重要性についてもお話を伺いました。

■移住のきっかけについて聞かせてください

治生さん：私たちはもともと歴史好きで、群馬には山城歩きや温泉を目的に何度も訪れていました。定年退職後の田舎暮らしを検討する中で次第に古民家に興味を湧き、インターネットの空き家検索サイトで調べたところ、この物件を見つけました。見学予約をして案内してもらったのはここが一軒目だったのですが、即決でした。

明美さん：後閑城もかなり前ですが来たことがあって、この家はその城域内にあるのも気に入った理由です。明治時代の建築で、直せば住める状態でしたし、ロケーション的にも、日差しや風の具合など、すべて古民家としての良い要素が揃っていました。大きな蔵や養蚕農家らしい赤いトタン屋根など一見して気に入りました。

治生さん：移住を決める前に、ご近所の方々からいろいろお話をお聞きし、新幹線の駅が近いことも知りました。「まあ住んでみてくださいよ」という言葉も、背中を押してくれました。



神津治生さん



神津明美さん

埼玉県からご夫婦で本市に移住。後閑で地域文化交流施設「後閑山荘」を開設し、講演会や展示会などを通じて地域の交流を育んでいる。

■建物の改修はかなりされましたか？

治生さん：かなり改修しました。最初はDIYでやる気だったのですが、床がかなり腐食していて、柱も継がなければならない状態でした。そこで、隣の方に探していただき、ある工務店にお願いしました。こちらの方々は宮大工に近い方で、古民家改修の経験も豊富でした。改修には1年半くらいかかりました。

明美さん：植栽の剪定や屋根の塗装なども、ご近所の方に紹介してもらいました。地域の情報をもとにお願いできたのが大きかったです。ネットで調べてもうまくいかなかったのですが、地域の方々のおかげで、うまくいきました。

治生さん：私自身、ネット文化に浸かっていましたが、顔で繋がるのが信用にもつながり、間違いがないと実感しました。顔が見えるアナログの良さを感じましたね。



■地域との交流について聞かせてください

明美さん：私自身、生涯学習等に関わる仕事をしてきた経験があり、地域と一緒にこの家を稼働させたいと考えています。昨年の11月にオープンしたのですが、オープニングイベントでは、